

角化異常：肌トラブルのトリガー -異常角化現象と炎症性皮膚疾患-

皮膚科学の視点から見ても、角化異常（異常角化現象と炎症性皮膚疾患）が肌トラブルのトリガーであることは認められています。異常角化現象と炎症性皮膚疾患の両方で、未熟な細胞が作られることは共通していますが、その結果として現れる症状や問題点が異なります。炎症性皮膚疾患では、未熟な細胞の過剰産生が主な問題であり、古い角質細胞は正常に剥がれ落ちます。一方、異常角化現象の場合は、古い角質細胞が正常に剥がれ落ちずに蓄積することが問題となります。

●異常角化現象：未熟な細胞の過剰産生と古い細胞の蓄積が同時に起きているのです。

1. 未熟な角質細胞の過剰産生：
 - 皮膚の基底層で未熟な角質細胞が通常よりも多く作られます。
 - これらの未熟な細胞が角質層に到達すると、角質層が厚くなりますが、これらの細胞はまだ完全に成熟していないため、バリア機能が弱いのです。
2. 古い角質細胞の蓄積：
 - 通常、古い角質細胞は自然に剥がれ落ちますが、異常角化現象ではこれがうまくいきません。
 - 古い角質細胞が皮膚に残り続けるため、角質層がさらに厚くなります。

この2つのプロセスが同時に起こることで、角質層が厚くなる一方で、皮膚のバリア機能が低下し、乾燥やひび割れ、かゆみなどの症状が現れます。

●炎症性皮膚疾患：未熟な細胞の過剰産生とバリア機能の低下が連動して炎症性皮膚疾患を引き起こします。

1. 未熟な細胞の過剰産生：
 - 未熟な角質細胞が過剰に産生され、角質層に現れることで、角質層そのものは厚くなります。
 - しかし、これらの未熟な細胞はバリア機能が弱いため、バリア力のある角質層が薄くなります。
 - 古い角質細胞は正常に剥がれ落ちます。
2. バリア機能の低下と炎症：

バリア力のある角質層が薄くなることで、皮膚のバリア機能が低下します。

 - その結果、異物が角質層や顆粒層に侵入しやすくなり、炎症が起こります。

これにより、赤みや腫れ、かゆみなどの症状が現れます。